

令和6年度 小・中学校における環境教育の取組み

総合的な学習の時間（第3・4・5学年）

テーマ【学校林活動を通じた環境学習】

河南町立かなん桜小学校

《学習のねらい》

- ・ 自然あふれる里山での体験学習を通して、森との出会いや人との出会いを大切にし、自然環境に与える意味や重要性について学ぶ。

《学習の流れ》

テーマ	1学期	2学期	3学期
3年 自然と親しむ	事前授業 身近な自然と親しもう ＜夏編＞	学校林と親しもう ＜秋編＞	学校林と親しもう ＜冬編＞ 事後授業
4年 昔のくらし		竹炭づくり	竹食器、竹飯づくり 事後授業
5年 よりよい学校林 をめざして		林業体験プログラム ・間伐体験 ・製材所見学 ・競り市見学 ・森の散策	よりよい学校林に 向けて

《指導のポイント》

- 校内の植物など生き物に興味を持ち、校区内の学校林に範囲を広げ、自然を身近に感じるため、季節による自然の移りかわりを通して学んでいく。
- 学校林にある窯（千年窯）で炭焼きを行い、身近な日常生活でも竹炭が利用されていることを知り、炭の消臭効果や工芸品などとして利用されていることを学ぶ。
- 学校林や社会見学「森林 ESD 体験活動」を通して森林の持つ様々な機能や働く人たちの願いに気づく。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

- ・ NPO 法人 里山倶楽部
- ・ 森林組合

《成果》

- ・ 校舎付近に竹林があり、子どもたちにとって身近な竹について4年生で調べ学習を行い、「なぜ？」「どうして？」と竹に関する疑問を持たせた上で活動に取り組みさせることにより、深い学びを保障することができる。その学びのスタイルが5年、6年にもつながり、近くの自然について自ら調べようとする態度の育成につながる。